

研究ノート

日本の政策構想をめぐって（４）

— 前田正名とその時代を中心に —

寺 岡 寛

1. 問題提起
2. 前田正名
3. 政策構想
 - （１）興業意見
 - 1) 緒言
 - 2) 綱領（以上、第11巻 第1号）
 - 3) 現況（以上、第11巻 第2号）
 - 4) 原因
 - 5) 参考（以上、第12巻 第1号）
 - 6) 精神（以下、本号）
 - 7) 国力
 - 8) 地方（以下、次号）
 - （２）政策構想
4. 政策評価

キーワード：興業、精神、法規、資本、起業、法律

3. 政策構想

（１）興業意見

6) 精神

『定本』の巻11「精神」は「精神ノ宗旨」「興業ニ要スル精神」「興業ニ要スル法規」から構成されている。まず、「精神ノ主旨」は興業での重要点をつぎのように強調する。

「我国今ヨリ十年ノ後、国力ハ何程ニ増進シテ、……今政府カ此計画ヲ立ルニ当リ、第一ニ要スル所ノモノハ、抑々何ナリヤ。蓋シ資本ナル可キカ、曰ク否、然ラバ即チ法律規則若クハ諸設置ナル可キカ、曰ク否、資本ト法規ハ死物ナリ。独行シテ効用ヲ為ス可キモノニ非ス。然ラハ即チ第一ニ要スルモノハ果シテ何ソ。曰ク、法規ト資本ヲ活用スル所ノ精神是レナリ。此精神ナクンハ、万ノ資本百ノ法規アルモ死資ノミ。豈能ク其用ヲ為サンヤ。是故ニ精神ヲ以テ法規ヲ活用シ、法規ノ力ノ能クス可ラサル所ニ資本ノ活用スルニ非サレハ、何事モ成ス可ラス。

試ミニ三者ノ力ヲ比例スレハ、精神ハ五分ニ居リ、法律規則ハ四分ニ居リ、資本ハ僅ニ一分ニ居ルノミ。一分ノ力ヲ以テ四分若クハ五分ノ力ヲ支配スルカ如キコトアレハ、到底其用ヲ為ス能ハサルナリ。……滋養ハ資本ナリ。攝生ハ法規ナリ。而シテ此二者宜シキニ適ヒ、病ヲ療シ益々元氣ナラシム可キハ、施治ノ精神如何ニ在ルコトヲ察セサル可カラス。……尚ホ一言シテ三者ノ用ヲ述ヘシ。抑々法規ハ必要ノ具ナリ。然リト雖モ、法規ニ拘泥シテ精神ノ活用ナケレハ、法規ニ拘泥シテ精神ノ活用ナケレハ、法規ノ奴隸ナリ。資本ハ欠ク可ラサル物ナリ。然リト雖モ単ニ資本ヲ以テ事ヲ為サント欲シ、精神ノ活用ナケレハ、資本ノ奴隸ナリ。……」¹⁾。

つぎに、前田正名は10項目にわたり第二で「興業ニ要スル精神」を説く。まず、前田は其一「率先者ナルヲ忘レル可ラサル事」で政府が開国に踏み切り、「四民ノ検束ヲ弛メ、各々其欲スル所ニ向ハシメ、其發達ノ自由ナランコトヲ務メタ」²⁾が、国民がこの真意を理解せず、その自由をどのように活用するかわかっていない現状を述べた上で、「却エ自ラ窮困ヲ招キ、其極意ニ世ヲ怨ミ上ヲ譲リ惡風ヲ増シ弊習ヲ長シ、遂ニ政府当初ノ真意ニ背馳スルニ至レリ」³⁾と問題点の在り処を指摘する。したがって、国民は「率先シテ当初ノ目的ヲ達スルノ方向ヲ取ルヘキ」⁴⁾ことが強調された。以下、9項目の重要箇所を列記しておこう。

其二「順序ヲ誤ル可ラサル事」—「司法、警察、衛生三務ノ繁劇ナルハ、其由テ来ル所、人民ノ生計ノ窮スルニアリ。然ラハ即チ益々其法ヲ嚴ニセサルニ至リ、適サニ以テ一層ノ繁劇ヲ増サンノミ。由是觀之要トシテ其弊源ヲ除去スルヲ力メサル可ラス。……是故ニ今日ノ急務タリ。而シテ之ヲ為スハ他ナシ。農工商ノ業ヲ盛ナラシメ。四民ヲシテ各其業ニ就カシムルニアルノミ。古人曰ク、衣食足りテ礼節ヲ知ル。……孔子曰ク、食ヲ足紙兵ヲ足スト。二千年前ニ於テ、施政ノ順序己ニ定マレリ矣」⁵⁾。

其三「方向ヲ異ニス可ラサル事」—「政府ノ方向ヲ異ニシテ相一致セス、各々其見ル所ヲ以テ是トシ、動モスレハ紛議ヲ生シ、……一国ノ政務ノ職タル者ニシテ其心ヲ用フルコト、商売ノ営業者ニタモ及ハスンハ、……国家ノ将来ヲ計ルニ足ランヤ、実ニ同體一致ノ主義ヲ執ラスンハ非サルナリ」⁶⁾。

其四「目的ヲ変ス可ラサル事」—「政府ノ方針ハ恰モ太陽ノ光線煌燦トシテ、下土ヲ照臨シ万

物ニ透徹スルカ如ク、皆其余光ヲ甘受シ、更ニ疑フヘカラス、惑フヘカラサラシムルノ確定ノ方針アルヲ要ス。既ニ一定ノ目的ヲ定メ確乎タル計画ヲ立テタル以上ハ、是レ即チ国是ナリ。是故ニ先ツ容易ニ担任者ヲ変更セサルヲ專要トス。若シ己ムヲ得スシテ変更スルコトアルモ、決シテ後任者ノ見込ヲ以テ最初ノ目的ヲ変更スヘカラサルナリ。凡ソ政府ノ事人ト共ニ変更スルコトアラハ、是レ担当者ノ私事ノ如シ。是レ古今万国ノ通弊ナリ。……邦国ノ寿命ハ千万年ナリ。之ヲ保持スルハ政府ナリ。然ルニ行政官ノ交替ト共ニ事業ノ方向ヲ動カシ、五年ニ一更シ、十年ニ一変スルカ如キ所為アリテハ、樹ヲ植ヘテ屢々移栽スルト一般ナリ。豈能ク百年ノ繁榮ヲ期スヘケンヤ」⁷⁾。

其五「土地ニ適スル業ヲ起ス可キ事」—「凡ソ自己ノ精シキ事ニ偏シ、土地ノ適不適ヲ考ヘシテ業ヲ勸メ、又世ノ風潮ニ連レ流行ヲ逐ウテ業ヲ薦ムルハ、害ニ益ナキノミナラズ、一地方ノ經濟ヲ攪乱スルノ害アリ。主任者ハ深ク注意シ、土地ノ適不適ヲ考ヘ、經濟上ノ前後緩急ヲ考ヘテ勸業ノ基本ヲ定メ、百年ノ計ヲ立テサル可ラス」⁸⁾。

其六「資本ニ応スル事ヲ為ス可キ事」—「今日ノ現状ニテハ、資力不相当ノ起業ヲ為サンヨリハ、農家ニハ一段ナリ一畝ナリ、自己所有ノ地面ニ就キ、肥料栽培其他ノ改良ニ注意セシメ、又其土地ニ適スヘキ植物ヲ栽植セシムル等、先ツ其卑近ナル処ヨリ誘導センコトヲ要ス。工業者ニモ亦漫リニ大機械ヲ備ヘ、工場ヲ設クルカ如キハ、後日ノ企望ニ附セシメ、從來ノ器械ヲ改良シ、徐々ニ其歩ヲ進マシムル様ニシ、専ラ注意ト勉強ヲ惹キ起スコト肝要ナリ」⁹⁾。

其七「年ト共ニ面目ヲ改ム可キ事」—「我国ニ今日ニ於テ最モ必要ナルヘキハ、一年ノ後ニハ此点ニ迄進ミ、十年ヲ経ハ是々ノ地位ニ達スヘシトノ目的ヲ定ムルコト是ナリ」¹⁰⁾。

其八「開化進歩其象アル可キ事」—「今我国稱シテ開化セリ進歩セリト云フト雖モ、其實ヲ察スレハ、生産物ノ数量ハ増殖セリト雖モ、粗製ノ廉価物ヲ増セルノミ。故ニ其實ハ大ニ昔日ニ劣レリ。未タ進歩ノ実ヲ見サルナリ」¹¹⁾。

其九「今日ノ耻ヲ思フ事」—「維新以後今日ニ至ツマテ百万耐忍シテ膝ヲ屈シ、或ハ教師ヲ聘シテ其指揮ニ任セタルモノハ、畢竟我カ応分ノ力ヲ以テ我国勢ヲ維持進歩シ、……我国開闢以來今日ノ如ク外邦人ヨリ侮辱セラレシコトナシ。加之祖先カ儲ヘ置キタル金銀器物ハ外交諸般ノ費用ニ消尽シタルハ、唯我国ヲシテ永ク独立国ノ体面ヲ存セシメントスルノ精神ニ外ナラサルナリ」¹²⁾。

其十「後世ノ譏ヲ思フ可キ事」—「眼ヲ放テ世界万国ノ所為ヲ視ルニ、内ハ勸奨保護至ラサル所ナク、農ヲ勸メ工ヲ起シ商ヲ通シ、以テ国力ヲ長シ巨多ノ戦艦ヲ備ヘテ、……強ニ強ヲ累ネントスル者アルノ世界ニ立チ、棄テ放ク可カラサルコトヲ棄テ放カハ、外人ノ笑ヲ如何セン。加之今ニシテ尽クス可キ所ヲ尽サスハ、後世必ス現政府ヲ譏ラン。思ハサル可カラス。古來名君賢相ノ為セル事ヲ見ヨ。議論百出、障碍縦横シテ之レヲ妨ケタリト雖モ、固ク一定ノ方向ヲ取テ動カサリシ故、能ク偉功ヲ後世ニ遺セルナリ」¹³⁾。

前田はこのように政府の政策に関する一般論を述べた後、第三として「興業ニ要スル法規」で6項目を掲げ、より具体的に自らの産業政策構想を展開する。

其一「農工商ハ放任ス可ラサル事」—「我農商工今日ノ現状ハ実ニ非常ノ衰頹ヲ極メタリ。之ヲ自然ノ成行ニ任シテ看過スルニ忍ヒサルナリ。加之政府ハ将来ノ計画ヲ立テテ、之ヲ救済スルニ責任ヲ有スルモノナリ。……夫レ既ニ看過スルニ忍ヒサルノ実況アリ、且之ヲ看過スル可ラサルノ責任アリ」¹⁴⁾。

其二「農工商ハ検束ヲ要スル事」—「我農商ノ窮セルハ、平素父母ナルモノカ其子ニ囁生ヲ命スルノ至ラスシテ、健康ヲ害スル多キニ因ルト一般ナリ。囁生法トハ何ソ。法律規則是レナリ。……農商工ノ現況ハ果シテ如何ナルヤ。其困難スル所以ヲ索ヌルニ、法律規則ノ不完備ナルニ因ルモノ十ノ八九ニ居レリ。此故ニ今農商工救済ノ計画ヲ為スニ当リ、単ニ藥餌ヲ投スルノ一方ヲ考ヘテ、囁生ノ如何ヲ顧ミサルニ於テハ、治療ノ効決シテ奏シ難シトス。殖産興業ノ方法ハ、単ニ資本ヲ要スルモノアリト雖モ、法律規則ノ力最モ効アルコトヲ弁別サセル可カラズ。……百法律千規則アリトスルモ、時事ニ適セスンハ、亦タ如何トモスヘカラス。人事ノ衰頹手ヲ拱シテ待ツ可キノミ。法律規則ノ人事ヲ左右スルノ勢力タル、実ニ泰山ノ動カスヘカラサルカ如シ。果シテ然ラハ、農商工業者ヲ勤勉ナラシメ、農商工業者ヲ有為ナラシメ、農商工業者ヲ勤勉ナラシメ、農商工業者ヲ富実ナラシメ、農商工業者ヲ公共ノ思想ニ富マシメ、農商工業者ヲ愛国ノ情ニ漏ラシメ、農商工業者ノ智識ヲ開達ナラシムヘキモ、皆法律規則ノ支配シ得ヘキ範囲内タラサルヲ得ス。果シテ斯ノ如ク活発有為勤勉富実ニシテ、而モ公共ノ思想ニ富ミ、愛国ノ情ニ溢レ、智識開達ナル国民ノ集合体ハ、国力富強ナラサラント欲スルモ得ヘケンヤ。是レ農商工業上ニ関シ、一定ノ方針一定ノ主義ヲ以テ法律規則ヲ設ケントスル所以ナリ」¹⁵⁾。

其三「農ニ係ル法律規則其他ノ精神」—「農務上目下ノ急要トスル処ノモノハ、農業ノ秩序ヲ整理シ、営業者ノ智識ヲ開導シ、及ヒ現業ヲ奨励スルニアリ……法律発布ノ精神」¹⁶⁾として16本の規則が掲げられた。①小作条例、②災害予防規則、③家畜伝染病予防規則、④獣医開業試験規則、⑤牛馬籍規則、⑥種蓄規則、⑦家畜保護規則、⑧鳥獣獵規則、⑨漁業借区条例、⑩淡水魚規則、⑪一定置漁具規則、⑫捕介採藻規則、⑬捕鯨規則、⑭鯨漁規則、⑮漁業雇人取締規則、⑯魚道規則。また、「諸設置ノ精神」として7機関が上げられた。1) 駒場農学校、2) 直轄獣医学校、3) 農業試験場、4) 蚕桑実験所、5) 農用分析所、6) 農産陳列所、7) 水産調査所。「現業奨励ノ精神」としては6制度が指摘された。ア) 農業巡回教師、イ) 種蓄ノ拡充、ウ) 育種場、エ) 水産試験所、オ) 魚蠟油製造所、カ) 博覧会共進会。

其四「商ニ係ル法律規則其他ノ精神」—「商務上目下急要トスルモノハ、内国商業ノ秩序ヲ整理シ、外国貿易ノ販路ヲ拡張スルニアリ。其精神ノアル処ヲ左ニ類別ス」¹⁷⁾として法律については、①「同業組合条例ヲ発布スルハ、各自孤立ノ弊害ヲ矯メ、相頼リ相制シテ営業上ノ便

益ヲ計ラシメンカ為、旧時ノ慣習ニ拠リテ之ヲ団結セシムルニアリ」¹⁸⁾、②「問屋条例ヲ發布スルハ、問屋タルノ資格及ヒ其権利義務ヲ定メ、其営業者ヲ確實ニシ、各生産者ヲシテ物品ノ販路ヲ円滑ナラシムルニアリ」¹⁹⁾、③「商法會議所通則ヲ發布スルハ、商法會議所ノ組織ヲ定メ、商事仲裁ノ権利ヲ与ヘ、商況ノ通信及ヒ物品ヲ便ニシ、商業ノ進歩ヲ計ルニアリ」²⁰⁾、④「發票保倉条例」の發布、⑤「会社条例」の發布、⑥「商人身代限規則」の發布、⑦「売掛ケ代金ノ訴訟期限ヲ改正スルハ、慣習取引ノ便利ヲ得セシメ、現金取引ノ便利ヲ得セシメ、現金取引ノ不便ヲ排除スルニアリ」²¹⁾、⑧「貨物保険条例」の發布。「諸設置ノ精神」では、前田はつぎの12項目を提示し、その意義を説いている。すなわち、a) 商法會議所の確立、b) 商業学校の拡張、c) 「度量衡」の更定、d) 「商法律」の起草、e) 「海外商業ノ要地ニ於テ、我国産物販売ノ大商件店ヲ設置スルハ、直接貿易ノ拡張シ併テ内国ニ於テ各物品ノ売買上間接ノ利益ヲ得セシムルニアリ」²²⁾、f) 「横浜、神戸、長崎ニ於テ官立保倉」の設置、g) 「海外荷為換」の開設、h) 「海外各地ニ名誉領事」、i) 「生糸検査ヲ横浜ニ設置」、j) 「製茶検査所ヲ横浜、神戸ニ設置」、k) 「領事へ農商務卿ヨリ直接往復ノ道ヲ開クハ、海外ノ商況ヲ通信セシメ、又ハ貿易上ノ訓令ヲ下シ、商況等ヲ調査セシムルニアリ」²³⁾、l) 「通商条約ノ事務ニ参与スルヲ以テ、条約ノ適否関税ノ輕重等ヲ酌量シ我貿易ヲ振作スルニアリ」²⁴⁾。

其五「工ニ係ル法律規則其他ノ精神」—「法律發布ノ精神」については、「専売特許条例」「職工条例及ヒ徒弟条例」「工場律」の制定が説かれた。「諸設置ノ精神」に関しては、「勸工列品所」「工事試験所」「器械製造ニ係ル事業ノ勃興」「工業巡回教師」「清酒ヲ改良」「綿糸紡績ヲ改良」「織物、陶器、漆器、金属器及ヒ紙ヲ改良」「製茶ヲ改良」「製藍ヲ改良」「硫酸及ヒ曹達ノ製造ヲ振起」「硝子製造ヲ振起」「麻糸紡績ヲ振起」が掲げられた。

其六「本省庶務ニ要スル法律ノ精神」—「庶務ノ急務トスル処ノモノハ、農商工施ノ機関ヲ整理シ、及ヒ農商工業者ノ精神ヲ奨励スルニ。而シテ又北海道移住上ニ便宜ヲ与ヘ、之ヲ奨励スルニアリ」²⁵⁾の「処置上ノ精神」として「農商工上等會議ノ組織ヲ改正」「農商工事ノ通信ヲ敏捷整理」「農商工事ノ統計ヲ確實整理」「農商工公報ヲ発刊」「府県勸業諮問会ノ氣勢ヲ奨励」「地方勸業委員ノ事ヲ奨励」「地方勸業各会ノ事ヲ改正奨励」が掲げられた。また、「農商工業者ノ精神ヲ奨励スルノ精神」では「褒章条例中農商工事ニ係ル部分ヲ改正」「農商工有功者顕揚例」「諮問会及ヒ勸業委員ノ身分取扱ヲ定ムル」必要性が指摘された。ついで、「北海道移住者ヲ奨励スルノ精神」は「北海道殖民ノ事ヲ漸次拡張スルハ、渡航及ヒ移住地ノ經營上ニ便宜ヲ与ヘ、尚ホ海陸運輸ノ保護ヲ加ヘ、漸次北門ノ要地ヲシテ人煙稠密ナラシムヘキ遠大ノ企画ヲナスニアリ」²⁶⁾とされた。

7) 国力

①重要物産の現状

国力の（一）では当時のわが国の重要物産として、つぎの項目について具体的データが収録されている。①日本全国田・畑・山林・原野・宅地その他の戸口・人口など—このうち職業別人口については第1表を参照、②農産物並製造物高（明治15[1882]年）—このうち、農産物上位10作物、製造品については第2表と第3表を参照、③各種税表、④15年輸出入表、⑤日本全国重要農産物及び製産物将来の見込み—米、繭、綿、煙草、菜種、甘蔗、麻、生糸、茶、樟腦、木蠟、藍、織物、陶器、漆器、紙、金属器、紡績、清酒、水産（未成）、牧畜（未成）、開墾（未成）、地質改良（未成）。

全国織物産出額については、前田正名が『興業意見』のまとめに取り組んだ明治10年代についてみると、明治13[1880]年をピークとして低迷していた。ただし、輸出額については、絹布が低迷するなかにあって綿布が伸びたことによって全体的には増加傾向にあった。陶磁器の産出額も同様の傾向にあったが、輸出に関しては明治14[1881]年を境にして低迷した。漆器、紙もほぼ同様の傾向にあった。ただし、紙の輸出額は順調に伸びていた。金属器の産出額でも明治13[1880]年がピークであり、以後減少を続けた。輸出に関しては、鉄器、黄銅器などは別として、主要な銅器などは低迷した。

各種税表については、歳入項目として租税、海関税、地租、鉱山税、北海道物産税、酒造税、

第1表 わが国の職業別人口

職業別分類	人口数（人）
農 業	1685万5963
工 業	79万2675
商 業	144万2557
雑 業	203万1280
官 員	2万2261
神 官	1万3282
兵 隊	3万1258
従 者	1万4874
僧 尼	6万6594
学 者	1万2147
漁 業	2万6343
医 者	3万5201
雇 人	34万5451
不 詳	1532万416

出所：後掲注1）を参照。

第２表 主要農産物の状況

農 産 物	産額（単位：石または斤）	代 価（円）
甘 藷	1,924,073,557	19,240,735
甘 蔗	606,032,626	4,848,261
実 綿	86,320,597	11,653,281
馬鈴薯	76,244,241	1,143,664
藍 葉	76,216,261	4,115,678
乾 鰯（いわし）	56,242,492	2,249,740
葉煙草	28,279,636	2,969,361
楮（こうぞ）皮	28,053,092	953,805
米	27,931,403	181,414,462
繭	26,623,665	16,373,320
煎 茶	17,776,438	7,039,469

出所：第１表に同じ。

第３表 主要製造品の状況

品 名	価 格（円）
織 物	33,376,580
陶 器	1,171,761
漆 器	1,225,251
紙	4,838,788
金属器	987,000
紡績紡糸（洋式機械及和 製新式器械の製糸）	1,878,356
菜種油	3,549,571
製 藍	6,248,524
清 酒	56,737,912
その他	産出価格未詳

出所：前表に同じ。

蓄麴営業税、煙草税、証券印税、郵便税、訴訟用印紙料、代言免許料、船税、車税、会社税、鉄
 獵税、牛馬売買免許税、売薬税、度量衡税、版權免許税、海外旅券その他免許手数料、旧税追納、
 訴訟罫紙諸税を掲げ、明治14[1881]年～明治17[1884]年の予算を紹介している。輸出表に関し
 ては、明治15[1882]年について作成されている。これについては第４表を参照のこと。当時の輸
 出についてみると、生糸や茶がわが国主力輸出製品となっていたことが理解される。当時は、わ
 が国の工業は手工業段階にあったとはいえ、たとえば、扇子の輸出数量は約600万近くもあったこ

とは効率的な分業体制の発達を示唆している。なお、輸出入に関しては、第5表を後掲している。
綿織糸の輸入額の大きさが注目される。

第4表 わが国の品目別輸出状況（明治15年）

品 目	産 額	代価 (円)	品 目	産 額	代価 (円)
生 糸 (斤)	2,884,068	16,232,150	木菌諸類 (斤)	752,325	332,104
原 糸 (斤)	1,507,688	1,206,495	木 蠟 (斤)	2,837,320	326,367
熨斗糸 (斤)	701,574	1,008,149	生 銅 (斤)	1,711,472	286,779
茶 (斤)	23,589,099	6,858,763	乾 鮑 (斤)	1,071,948	285,921
米 (担)	650,977	1,652,114	煎海鼠 (斤)	662,477	271,883
石 炭 (噸)	324,671	1,177,343	寒 天 (斤)	777,232	211,237
樟 腦 (斤)	5,008,413	869,127	磁 器	—	204,445
鯛 (するめ、斤)	3,745,245	648,681	木材・板	—	195,396
漆 器	—	555,304	紙	—	173,333
熟 銅 (斤)	2,820,312	540,404	扇 子 (数)	5,917,793	156,856
葉昆布 (斤)	22,834,325	408,309	粉 茶 (斤)	3,232,947	125,161
蚕卵紙 (数)	177,240	122,485	刻昆布 (斤)	4,059,836	121,846
壳 蛹 (斤)	421,878	417,633	魚 油 (斤)	3,284,155	105,783
陶 器	—	374,195	安質母尼 (斤)	1,895,979	101,111
真 綿 (斤)	75,566	159,316			

出所：前表に同じ。

第5表 わが国の品目別輸入状況（明治15年）

種 目	数 量	代価 (円)	種 目	数 量	代価 (円)
綿織糸 (斤)	25,297,100	6,562,011	ブランケット (斤)	462,436	210,136
赤砂糖 (斤)	60,129,027	2,887,887	豆 (斤)	11,694,716	200,651
生金巾 (ヤード)	49,600,955	2,426,822	羅 紗 (ヤード)	157,469	181,881
石炭油 (斤)	100,825,749	2,320,905	袂時計 (数)	31,386	168,899
白砂糖 (斤)	18,915,686	1,545,823	石 炭 (トン)	21,901	149,715
縮緬呉呂 (ヤード)	8,873,846	1,211,784	時 計 (数)	50,362	130,627
熟 鉄 (斤)	25,048,138	675,764	小巾金巾 (ヤード)	2,287,454	124,889
緋金巾 (ヤード)	10,578,692	617,275	雲 齊 (ヤード)	1,564,082	123,844
機械類	—	339,705	亀 甲 (斤)	24,744	111,773
綿天鵞絨 (ヤード)	1,973,628	331,435	洋 紙	—	111,318
繰 綿 (斤)	3,309,796	467,248	更 紗 (ヤード)	1,635,709	107,441
熟 皮 (斤)	741,928	270,140	フランネル (ヤード)	375,017	105,784
鉄道線 (金)	12,418,128	247,638			

出所：前表に同じ。

②重要物産の将来見込み

前田は第五「日本全国重要農産物及ヒ製産物将来ノ見込」として米、繭、綿、煙草、菜種、甘蔗、麻、生糸、茶、樟腦、木蠟、藍、織物、陶器、漆器、紙、金属器、紡績、清酒を挙げ、それぞれについて将来の見込みを検討している。以下では、それぞれの重要物産についての前田が指摘する重要部分を列記しておこう。

ア) 米—「今我国ニ於テハ、米作ノ為メニ特ニ資金ヲ費シテ田地ヲ開クハ目下ノ急務ニ非ス。販売等ノ為メニ適宜ノ良法ヲ設クルヲ專要トス。而シテ現在ノ産額ニ改良ヲ加ヘ、其品位ニ尚ホ幾層ノ進歩ヲ増サシムルハ甚タ緊要ナリトス。……元来我国ノ米ハ其形状世界中見苦ク、外国ノ賞翫ヲ受ケス。……明治十年ノ頃ヨリ初メテ我来ヲ以テ洗濯用ノ糊ニ用ヒルコトヲ知り、従来小麦ニテ製シタルモノニ比スルニ、其粘液ニ富ムト光沢ノ多キトハ大ニ之ニ勝ルノ実アリニ因リ、漸次此道ニ向ツテ需用ヲ来スニ至リタリ。即チ将来益ヲ望ミアルモノナリト云フヘシ」²⁷⁾。

イ) 繭—「繭ノ産出ヲ増サンニハ、其間種々危険ノ憂アルニヨリ、……目下ノ急務ハ現在ノ繭2664万余斤ノ産出高ヲ、毫モ増減セスシテ、専ラ之ヲ改良ノ点ニ向ハシメサルヘカラス。……現在ノ産出高二付、假例ヲ設タルモニシテ、即チ上等ハ総産出高ノ十分ノ一、中等ハ之ニ倍シ、下等ハ十分ノ七ナリ……上等ヘ進マシメ……」²⁸⁾。

ウ) 綿—「我カ綿ノ数量ヲ倍化スルニ非レハ輸入ノ全額ヲ防ク能ハサルナリ。我実綿ノ盛衰ハ主トシテ欧米諸国紡績機械ノ進否如何ニアリ。我国曩ニ紡績機械ヲ設ケ、未タ数年ナラサルノ今日ニ当リ、早ヤ既ニ困難ノ地位ニ陥ルタリ。是レ即チ其設立ノ当時ヲ知りテ、将来ヲシンニセサリシノ失敗ノ外ナラス。……」²⁹⁾。

エ) 煙草—「日本煙草ハ改良スル能ハサルカ、否決シテ然ラス」³⁰⁾。

オ) 菜種—「菜種ハ仲作ニシエテ格別手間ヲ要セス。最モ日本ニ適當セル作物ナレハ、益々其産額モ増加スヘキ筈ナルニ、反テ斯ク年々ニ産額ノ減シタル所以ハ全ク石油輸入ノ為メニ圧セラレタルヲ知ルヘシ。……我菜種油ハ不幸ニシテ石油ノ輸入ニ圧セレ、一時衰況ヲ現ハシタルモ、近年反テ輸出ノ道開ケシヨリ次第ニ回復ノ色ヲ起シ、現ニ勢州四日市ノ如キハ従来搾油業ヲ為スモノ多カリシカ、近頃ニ至リテハ其業一層ノ繁昌ヲ来セリト云フ」³¹⁾。

カ) 甘蔗—「砂糖輸入ノ巨額ナルコト実ニ驚クニ堪ヘタリ。而シテ我需要ノ今後益々盛ンナルヘキハ疑フヘカラス。……退テ顧ミルニ、我国ハ砂糖国ナリ。其産出ヲ盛ナラシムル、豈ニ難カラシヤ。唯其レ国力ノ乏キ、富実ノ給ラサル、遂ニ之ヲ海外ニ仰クニ至ル。……沖縄其外ニ三地方ノ糖業ヲ以テ輸入ノ砂糖ヲ防クハ、決シテ難事ニアラサルヲ知ル。……然ルニ改良ヲ図ルノ精神ニ至リテハ、或ハ当時ニ譲ルモノノ如キハ実ニ遺憾ノ至リナリ」³²⁾。

コ) 麻—「我国ノ麻ハ仏国ノ博覧会ニ於テ独リ其美ヲ專ニシ、己ニ各国ノ審査員ハ皆怪ミテ之

ヲ麻ナリトハ信セサリシカ、・・・・・繊維ノ強靱ニ過クルヲ以テ、尋常ノ紡績機械ニ懸リ難ケレハ、容易ニ外国ノ需用ニハ供ス可カラス。・・・・・麻ノ産出大ニ北海道ニ起ラハ、・・・・・大ニ北海道ニ麻ヲ植ユルニ在リト」³³⁾。

サ) 生糸―「日本糸ノ品位ヲ進メテ、仏糸ノ位地ニ達セシムルハ万難事ニアラス。・・・・・今我日本ニテ右ノ方法ニ依リ生糸ノ改良ヲ計ルトキハ、十年ヲ出スシテ、伊ニ駕シ、仏ヲ凌キ、滔々タル天下殆ント一ノ勁敵ヲ見サルヘシ。仏ノ勢強大ナリト雖モ、之ニ対峙スル能ハサルヘキハ猶ホ、我西陣ノ桐生織物ニ圧セラレルルカ如キニ至ラン。・・・・・幾多ノ産額ヲ進ムル猶ホ或ハ其供給ヲ充タスニ足ラサルヲ恐ル。何ノ違アイテカ需用ノ漲溢ヲ見ルヘカンヤ」³⁴⁾。

シ) 茶―「我製茶ノ実況ヲ觀察スルニ、天然産ノヲ除キ、其他ハ暫ク現在ノ度ヨリ増減セス、此度ヲ保守スルノ覚悟ヲ專要トス。・・・・・然レトモ我国ノ製茶ハ先ツ改良ノ一着ヲ終フル迄ハ、決シテ其高ヲ増加スヘキモニアラス。寧ロ其産額ヲ増加スルヨリモ、此際注意ノ周到ナランコトヲ以テ第一ノ要務トナスニアレハナリ。・・・・・現ニ米人ハ緑茶又ハ再製茶ヲ以テ其嗜好適セルモノトナスノ有様アレトモ、欧州人ノ如キハ紅茶カ嗜好ニ適スヘキカ、将タ緑茶、再製茶等カ其飲用ノ慣習トナルヘキカ未タ一定セサルモノナリ。・・・・・我国ノ製茶ハ固ヨリ改良ヲモ要スヘケレトモ、栽培其他ノ事ハ寧ロ第二段ナリト云フヘシ。乃チ既ニ茶トナリタル後ノ商売上ニ付、其方法ヲ改良スル方急速ノ要務ナリ。是レ我国人カ目下注意セサルヘカラサル至緊至急ノ事項ナリトス」³⁵⁾。

ス) 樟腦―「元来樟腦ハ樟樹ノ成長四十年外ノモノニアラサレハ得ヘカラス。然ルヲ目下ノ利ノ為メニ之ヲ濫伐スルハ、甚タ惜ムヘシ。宜シク旧時各藩ニ行ハレタル取締法ヲ参酌シ、之レカ制限ヲ立テサル可カラス。否ラサレハ数年ヲ出テスシテ、樟樹ハ根跡ヲ絶ツニ至ルヘシ」³⁶⁾。

セ) 木蠟燭―「木蠟ノ輸出ハ漸次其歩ヲ進ムルモノノ如クナレトモ、一時曾テ石油ノ為メニ蠟ノ需用ヲ狭メラレタルニ際シ、一方ニハ蠟燭取締ノ制破レタルヲ以テ、濫リニ蠟樹ヲ伐リ倒シ、之ヲ薪トスモノ多カリシカハ、今日ハ俄カニ巨額ノ蠟ヲ採製スルコト能ハサルヲ憾ムルノミ」³⁷⁾。

ソ) 藍―「曾テ十五年前瓦斯製造ノ余中ヨリ、茜根ノ色素タル『アリザリン』ヲ發明セシカ、数年ナラスシテ自然生茜根ハ跡ヲ絶ツニ至レリ。・・・・・務メテ輸出ノ道ヲ図ラハ、人工藍モ亦深く恐ルルニ足ラサルヘキカ、是レ藍靛製造ヲ改良スヘキ・・・・・」³⁸⁾。

タ) 織物―「製造ノ著大ナル地方ハ、第一埼玉、第二群馬、第三栃木、第四京都、第五愛知、第六岐阜、第七石川、第八新潟、第九神奈川、第十山口トス。埼玉ハ第一二位スト雖モ、其製出スル所大抵木綿若クハ普通絹布ノ類ニシテ、輸出ニ適スル物品ノ如キハ殊ニ寥々ニ属ス。・・・・・見本陳列所、紡績模範場、試験所等整備ノ方法計画ナカルヘカラス」³⁹⁾。

チ) 陶磁器―「粗製放売ノ害ヲ防クノ手段存立セシヲ以テ、盛衰繁閑ノ度甚シカラサリシカ為メニ、平素工人其技能ヲ練磨スルノ順序備ハリシ。維新後検束ノ習慣漸ク破レ、繁閑度ヲ失

シ、竟ニ技能練磨ノ順序ヲ紊スニ至レリ。……粗製乱売ノ弊ヲ矯メ、技能練磨ノ順序ヲ得セシムルノ肝要ナルハ固ヨリナレトモ、更ニ一步ヲ進メテ左ノ各項ヲ改良シ、一ハ彼カ好尚ヲ惹起スヘキ斬新ノ工夫ヲ尽シ、……窯ノ構造ヲ改良シテ……」⁴⁰⁾。

ツ) 漆器—「漆工ハ本邦特有ノ技芸ニシテ、其名声夙ニ外邦ニ馳ス。……然ルニ明治中興以来濫造競売ノ風次第ニ行ハレ、本邦百工ノ中ニ在テ至貴重ノ位地ヲ占メ、西人ニ誇耀スルニ足ル可キ特有ノ製品ヲシエ漸次西人ノ件厭忌スル所ト為ルニ至ラシメシモノハ、実ニ遺憾ノ至リナラスヤ。……近來漆樹ノ量漸ク欠乏スルノ致ス所ニ非サルハナイ。抑々漆樹ハ昔時藩庁ノ保護奨励ニ拠テ各地之カ栽培ニ従事セシモノ少ナカラサリシカ、維新以来都テ藩制ノ束縛法ヲ解キ、全ク人民自由ノ營業ニ帰セシカハ、或ハ一時ニ掻殺シ、或ハ往々濫伐ヲ事トシ、遂ニ今日ノ如キ漆液ノ欠乏ヲ告クルニ至レリ。……」⁴¹⁾。

テ) 紙—「元來我国人カ貿易上ニ經驗乏シク、商売ノ呼吸ヲ知ルニ鈍キハ一般ノ事ナレトモ、殊ニ此紙輸出ノ点ニ就テハ、其甚シキモノナリ。……我国ノ紙ヲシテ何程高価ナラシムルモ、需要ヲ減スルノ憂ヒ更ニナク、必スヤ多額ノ輸出ヲナスヘキモノナルニ、其辺ニ注意足ラス、剩サヘ海外ノ紙ニ模擬シ強ヒテ其色ヲ純白ナラシメタルカ如キ、彼国人ノ信用上ニ取り大ナル關係ヲ与ヘ、価廉ニ品良キ我紙ニシテ、……外人カ日用ノ紙ハ朝ニ之レヲ用ヒテ、夕ニ破リ棄ツルノ風ナルニヨリ、必スシモ我紙ノ如キ強靱ノ質ヲ有スモノヲ要セサルノ一事即チ是ナリ」⁴²⁾。

ト) 金属器（鍋、釜、鉄瓶、火鉢、鎌など）—「昔日販出セシ紋様ノ既ニ時好ニ後レタルヲモ知ラスシテ、猶ホ陳套ヲ襲ヒ、続々同一ノ物品ヲ製出スル等、ニ因リヘシト雖モ、亦濫造競売ノ為メニ其品位ヲ下シ、其信用ヲ失ヒタルヤ疑フ可カラス」⁴³⁾。

ナ) 紡績

ナー 1) 綿糸紡績—「国民必需ノ品ニシテ、海外ヨリ品物中最モ巨額ヲ占ムルハ夫ノ綿糸ニ若クモノナシ。……百工興起ノ氣運方ニ至ルノ時ナリ。豈夫レ急要如此キ事業ニシテ之カ拡張ヲ図ラサル可ケンヤ。夫レ然リ而シテ凡ソ曾テ技術ナク經驗ナキノ徒ヲカ駆テ、漫ニ大業ヲ起サシムルハ、啻ニ其業ニ益ナキノミナラス、併セテ将来百業發育ノ大妨害タラントス。本邦ニ於テ明治十年以降、官ノ勧誘ニ由リテ陸續起レル紡績業者ノ如キハ、概ネ所謂曾テ技術ナク經驗ナキノ徒ナルカ故ニ、若シ今ニシテ之ヲ指教開導セサレハ、竟ニ該業發育ノ妨害タラサルヲ保シ難シ。……緊急切要ナリトスル施設方法ヲ挙クレハ左ノ如シ。第一、紡績研究所ヲ起シ、……第二、既設工場ノ為メニ時々巡回教師ヲ派遣シ、……第三、紡績工場ヲ諸県ニ散置スルハ……大阪ヲ以テ工場營業ノ中央本部ト定メ、必ス地利石炭原資金利販売売傭役生計等ニ便益アル地方聚合セシム可シ」⁴⁴⁾。

ナー 2) 麻糸紡績—「本邦の麻苧ハ既ニ輸入ニ圧倒セラルヘキノ害アルモノトス。今ニシテ之カ紡績術ノ開進ヲ図ラサレハ、前述ノ不幸ヲ見ルコト恐クハ当サニ近キニ在ルヘシ。因テ

之カ開進ノ方途ヲ按スルニ、我国固有ノ人手紡織ハ、其精細工ヲ除クノ外、到底之ヲ機械ニ
転セシメサル可カラス。然ルニ今ヤ幸ニ江州紡績会社ノ興ルアリテ、其起業ノ計画ニ際スル
カ故ニ、其業ヲ開クヲ竣テ深く供給需用ノ度ヲ斟酌シ、以テ尚ホ他日計画スル所アルヘシ。而
シテ其學術講習ノ事ニ至リテハ、工業学校、紡績学校等ニ於テ必ス之ヲ務メシムルヲ要ス」⁴⁵⁾。
ニ) 清酒—「其醸造法タル、頗ル粗漏ニシテ、只慣法ノ熟練ニノミ是レ依リ、・・・巡回教
師ヲ派遣シ、或ハ改良方法ヲ説クニ原理ヲ以テシ、示スニ雛型ヲ以テスル等ノ手段ヲ以テ
足りトス可シ」⁴⁶⁾。

③府県別の産

国力二では、府県の現状について紹介される。具体的には、第一「各府県田畑山林原野宅地戸
口及ヒ物産表、附・各府県農産物ニ係ル入費収穫ノ比較、総段別及ヒ農工産ト人口トノ比較」、第
二「各府県輸出入表」、第三「運送表」、第四「各府県需重要ナル物産ノ産額増減表」となってい
る。

第一では東京から始まって各府県について具体的な数字が紹介されている。重要物産として掲
げられたのは米、実綿、麻、藍葉、甘蔗、楮皮（こうぞ）、煙草、菜種、繭、生糸、蚕種紙、茶、
水産物などである。なお、参考までに各府県の人口と農産物・工産物価格を第6表に紹介してお
く。

④予算

国力三では。それぞれの重要物産などについての「予算」が取り上げられている。具体的な項
目はつぎのようになっている。

第一「生糸改良ノ予算」—「爾三年来糸価大ニ下落シ、之ニ加フルニ横浜荷預所ノ葛藤ア
リ、・・・政府之ニ力ヲ添フレハ、以テ今日ノ衰運ヲ挽回セシムルコトヲ得ヘク、若シ之
ヲ放棄セハ、竟ニ我カ一大富源ヲ失ハシ。其利害損益果シテ執レニカ在ル。・・・今改良
手段ヲ陳スルニ当リ、先ツ弁セサル可カラセルモノアリ。蚕糸者社会ノ与論ハ、該業衰退ノ
原因ヲ挙ケテ一ニ之ヲ資本ノ欠乏ニ帰シ、其他ノ改良手段ニ至リテハ敢テ顧ミサルカ如シ。
又世ノ局外者ハ、困難ノ現状ヲ察セスシテ、之ニ高尚ノ事ヲ求ム。是レ皆偏見タルヲ免カレ
サルナリ。（中略）一旦生糸ヲ外商ニ売渡シタル後、其糸ノ何ナル変化ヲ経テ、何ナル国ニ消
靡セラルルヤ、其終リヲ見届ケタルモノ少シ。又外国ノ航シテ親シク需用地ノ模様ヲ探リタ
ルモノ果シテ幾人アリヤ。・・・外商ハ所謂拝見ト称ヘテ十分ノ我儘ヲ働ケトモ我ト之ヲ
拒ムコト能ハサルノミナラス。常ニ其鼻息ヲ窺ヒ、唯命是レ従ヒ、未タ対等ノ取引アルコト
ヲ開カス。・・・蚕糸社会ノ独立ヲ維持シ、其威名ヲ四方ニ躍ス所以ナリ。左ノ三項ヲ有
スルモノハ即有制ノ兵ナリ。い、組合ヲ設ケテ養蚕、製糸ノ改良ヲ計ル事、ろ、同業者ノ気
脈ヲ通シ、智識ヲ交換スル事、は、外国ニ商店ヲ開キ、或ハ時々通信者ヲ派遣シ務メテ海外

第 6 表 各府県別の人口及び農産物・工産物

府県別	人口（人）	農産・工産物（円）	府県別	人口（人）	農産・工産物（円）
東 京	994,167	3,670,764	青 森	498,882	3,664,303
京 都	845,480	14,976,675	秋 田	641,588	6,883,437
大 阪	1,572,333	20,767,782	山 形	705,982	7,383,188
神奈川	800,925	不 詳	石 川	743,669	6,124,534
兵 庫	1,447,886	18,509,394	福 井	582,203	6,242,399
長 崎	689,872	4,339,627	富 山	702,945	6,119,294
新 潟	1,586,592	19,130,873	島 根	不 詳	不 詳
函 館	146,926	未 詳	鳥 取	383,370	5,071,561
埼 玉	962,717	12,751,691	岡 山	1,038,780	8,210,072
群 馬	625,403	17,390,083	広 島	1,252,797	13,368,702
千 葉	不 詳	未 詳	山 口	不 詳	不 詳
茨 城	920,816	9,496,367	和歌山	610,182	8,538,628
栃 木	608,991	10,413,824	徳 島	642,073	7,955,312
三 重	857,883	10,012,788	高 知	548,133	7,519,386
愛 知	1,375,746	16,708,234	愛 媛	不 詳	不 詳
静 岡	985,872	9,249,708	福 岡	1,120,833	17,557,118
山 梨	410,232	8,532,742	大 分	752,687	6,266,974
滋 賀	654,766	10,590,883	佐 賀	519,935	5,822,812
岐 阜	879,824	10,596,284	熊 本	1,000,811	13,801,047
長 野	1,044,984	17,289,712	宮 崎	381,775	2,086,998
福 島	840,208	15,991,357	鹿児島	929,853	3,642,733
宮 城	633,117	8,849,656	札 幌	未 詳	未 詳
岩 手	610,732	5,815,950	根 室	14,412	682,790

出所：前表に同じ。不詳と未詳は定本による。

ノ商況ヲ審カニスル事」⁴⁷⁾。そして、「資本補闕概算」として173万2千円の予算が挙げられている。奨励補助として民設蚕糸検査所（15万円、15年返済）、このほかにも蚕糸調査費、海外調査費、巡回教師、共進会、養蚕学校などに60万円などが計上されている。

第二「茶改良ノ予算」―「今日迄ノ実況ヲ觀察スルニ、我茶業ノ決シテ盛大ヲ期スルコト能ハサル所ノ結果三アリ。第一品位ノ精良均一ナラス、及ヒ其荷造リノ堅牢ナラサル事、第二需用供給ノ度ヲ測ラスシテ濫リニ製額ヲ増ス事、第三我先ニト売り急キヲナス事、是レナリ。凡ソ此三ノモノハ皆我茶ノ価格ヲ墜シ、販路ヲ狭メ、外国ノ信用ヲ失ヒ、失敗ヲ重ネル所以ナリ。……一ハ智識ノ欠乏ニシテ、一ハ資本ノ欠乏是レナリ。（中略）仮令ニ内地ニ於テ何ホト改良ニ注意シ、精良純粹ノ茶ヲ製スルトモ、一タヒ居留外商ノ手ニ墜ツレハ、宇治モ

狭山モ信楽モ日乾モ皆一樣ニ混和セラレテ、其本来ノ面目ヲ全ウスルコト能ハサルハナリ。……第一ニ貿易ノ改良ヲ計ラサルヘカラス。第二ニ製造ノ改良ヲ計ラサルヘカラス。而シテ貿易ノ改良ヲ計ランニハ、同業者ノ団結ヲ以テ主腦トス。我政府嚮ニ茶業組合準則ヲ発セシヨリ、各地組合ノ制同業ノ規約モ又略々定マル。……製造ノ改良ニ至リテハ、時期切迫シテレハ、最早愉遊猶与スヘキニアラス。而シテ其要点ナル他ナシ。再製及ヒ荷造ノ業ヲ起シ、併セテ海外直輸ノ路ヲ開クノ一点ニアリ」⁴⁸⁾。前田は改良による利益額を示しつつ、資本補闕概算として再製緑茶、紅茶の改良に40万5千円を計上している。茶業上奨励補助については、生糸と同様の項目で15万円を毎年支出する必要性を強調している。

第三「砂糖改良ノ予算」―「全国産糖ノ地方ヲ大別シテ三区トナシ、……第一糖区、沖縄、大島、鬼界、沖永良部、与論、小笠原島及ヒ種子島、第二糖区、鹿児島、宮崎、長崎、熊本、高知、第三区、愛媛、徳島……」⁴⁹⁾であり、前田は薩摩藩出身ということで糖業に詳しいこともあってか、産地別に詳細にわたって改良に要する費用を産出し、その目的に添って予算を示している。第一糖区について新式製糖試験場の設立に5万4.5千円（毎年の回収見込みは1万4.5千円）、糖業奨励補助金として調査費、海外調査費、巡回教師派遣費など15万円を毎年支出する必要性を説いている。

第四「煙草改良ノ予算」―「製造試験場ヲ興シテ、始テ彼此嗜好ノ異ヲ弁ス可ク、嗜好差異ヲ弁シテ、漸ク品位ノ精粗ヲ悟ル可ク、品位ノ精粗ヲ識テ、始メテ我製ノ可否ト種類ノ良悪ヲ明カニスルニ至ラハ、自カラ販路ノ貫通ヲ告クルハ必然ナリ」⁵⁰⁾として、輸出煙草裁製試験場一ヶ所の創立費、外国教師雇給費、機械費用などの資本補闕概算として3万円が計上されている。

第五「水産物改良ノ予算」―「本邦ノ水産ハ陸産ノ米ニ亜ク所ノモノニシテ、実ニ富国ノ本原最大要件ニ係ルモノナリ。故ニ米穀ノ外凡ソ此右ニ出ツルモノアルコト稀ナリ。而シテ又海外貿易上ヨリ論スルモ、未タ欧米諸国ニ向テ輸出スル適度ニ達セス。支邦地方ヘノ輸出モ尚ホ彼ノ国ノ望ニ達スル能ハサルノ有様ナリト雖モ、輸出貿易ノ商品中価格ノ百分ノ七以上ヲ占メタリ。……缶詰ノ製造モ海外ノ需用ニ応スル製造ヲナシ得ラル可キ資力ヲ要スレハ、必ス幾分ノ収益アルヘキカ。又魚油ヲ輸出スルニ当リ之ヲ精製シテ魚蠟ニ製スレハ、現今輸出スルモ、亦難キニアラス」⁵¹⁾。資本補闕概算としては250万円が計上されている。

注

- 1) 大蔵省編纂大内表兵衛・土屋喬雄校『明治前期財政経済史料集成』第18巻の2（興業意見上）、明治文献資料刊行会版、昭和39年。433～434頁。
- 2) 同上、434頁。
- 3) 同上。
- 4) 同上。
- 5) 同上、435頁。
- 6) 同上。
- 7) 同上、435～436頁。
- 8) 同上、436頁。
- 9) 同上。
- 10) 同上、437頁。
- 11) 同上。
- 12) 同上、438頁。
- 13) 同上。
- 14) 同上、439頁。
- 15) 同上。
- 16) 同上、440頁。
- 17) 同上、441頁。
- 18) 同上。
- 19) 同上。
- 20) 同上。
- 21) 同上。
- 22) 同上。
- 23) 同上、442頁。
- 24) 同上。
- 25) 同上。
- 26) 同上。
- 27) 同上、466頁。
- 28) 同上。
- 29) 同上、469頁。
- 30) 同上、471頁。
- 31) 同上、472頁。

- 32) 同上、473頁。
- 33) 同上、474～475頁。
- 34) 同上、475頁。
- 35) 同上、476～478頁。
- 36) 同上、478～479頁。
- 37) 同上、480頁。
- 38) 同上、481～482頁。
- 39) 同上、482～483頁。
- 40) 同上、483～484頁。
- 41) 同上、484～485頁。
- 42) 同上、486頁。
- 43) 同上、487頁。
- 44) 同上、488～489頁。
- 45) 同上、490頁。
- 46) 同上。
- 47) 同上、762～765頁。
- 48) 同上、767～768頁。
- 49) 同上、779頁。
- 50) 同上、800頁。
- 51) 同上、804～807頁。